

## 安全データシート

製品名 2,4-ジクロロトルエン

作成日 2011年1月19日

改訂日 2015年11月28日

### 1 化学名及び会社情報

化学品の名称	2,4-ジクロロトルエン
会社名	京都電子工業株式会社
住所	京都市南区吉祥院新田二の段町 68
担当部門	品質保証部
電話番号	075-691-4121
FAX 番号	075-691-4127
緊急時の電話番号	075-691-4125
整理番号	GHS-0033

### 2 危険有害性の要約

#### GHS 分類

物理化学的危険性	引火性液体	区分 4
健康に対する有害性	急性毒性(経口)	区分 5
	生殖細胞変異原性	区分 2
	標的臓器/全身毒性(単回暴露)	区分 2(麻酔作用)
環境に対する有害性	標的臓器/全身毒性(反復暴露)	区分 2(肝臓、腎臓)
	水生環境有害性(急性)	区分 2
	水生環境有害性(慢性)	区分 2

上記で記載がない危険有害性は分類対象外または分類できない。

#### ラベル要素

##### 絵表示又はシンボル



##### 注意喚起語

警告

##### 危険有害性情報

可燃性液体  
 飲み込むと有害のおそれ  
 遺伝性疾患のおそれの疑い  
 呼吸器刺激を起こすおそれ、または昏睡およびめまいを起こすおそれ  
 長期にわたる、または、反復暴露による臓器(肝臓、腎臓)の障害のおそれ  
 水生生物に毒性  
 長期的影響により水生生物に毒性

##### 注意書き

安全対策	<p>保護手袋および保護眼鏡／保護面を着用すること。炎および高温のものから遠ざけること。安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。必要に応じて個人用保護具を使用すること。</p> <p>屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。</p> <p>粉じん／ヒューム／ガス／ミスト／蒸気／スプレーの吸入しないこと。</p> <p>環境への放出をさけること。</p>
応急措置	<p>火災の場合には、適切な消火剤を使用すること。</p> <p>暴露または暴露の懸念がある場合：医師の診断／手当を受けること。</p> <p>吸入した場合：新鮮な空気のある場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。</p> <p>気分が悪い時は、医師の診断／手当を受けること。</p>
保管	<p>漏出物を回収すること。</p> <p>容器を密閉して換気の良いところで保管すること。</p> <p>施錠して保管すること。</p>
廃棄	<p>法令に従って廃棄すること。</p>
他の有害性情報	<p>皮膚および眼との接触を避ける。</p> <p>眼と接触した場合は、直ちに多量の水で洗い医師の診断を受ける。</p>

### 3 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区分	単一物質
化学名（一般名）	2,4-ジクロロトルエン
別名	1-メチル-2,4-ジクロロベンゼン、2,4-ジクロロ-1-メチルベンゼン

成分名	含有量	化学式（構造式）	官報公示整理番号 （化審法・安衛法）	CAS No.
2,4-ジクロロトルエン	99.0%以上	C <sub>7</sub> H <sub>6</sub> Cl <sub>2</sub>	3-78	95-73-8

GHS分類に寄与する不純物 なし  
及び安定化添加物

### 4 応急措置

一般的な措置	事故が起きたときあるいは気分が悪い場合、直ちに医師の診断を受ける（できればラベルを見せる）。
吸入した場合	<p>吸入による事故の場合は負傷者を新鮮な空気のある場所に移し、休息させる。</p> <p>呼吸が弱かったり止まっている場合、衣類をゆるめ呼吸気道を確保した上で人工呼吸を行う。</p>
皮膚に付着した場合	<p>汚染された衣類すべてを直ちに脱ぐ。</p> <p>皮膚に触れたら、直ちに多量の水で洗う。</p>
眼に入った場合	最低 15 分間、清浄な水でゆるやかに眼の洗浄を行う。できるだけ速やかに医師による診断と医療処置を受ける。

飲み込んだ場合	飲み込んだ場合、直ちに医師の診察を受け、医師にその容器又はラベルを見せる。 飲み込んだ場合は水で口内を洗う(その人に意識がある場合のみ)。 無理に吐き出させてはならない。
応急措置をする者の保護	救助者はゴム手袋と密閉ゴーグルなどを着用する。
<b>5 火災時の措置</b>	
消火剤	火災の場合は噴霧水、泡／耐アルコール泡、粉末、二酸化炭素、乾燥砂を使用する。 周囲の状況に適した消火剤を使用する。
使ってはならない消化剤	特になし
火災時の特定危険有害性	火災の際、熱分解又は燃焼により刺激性及び／又は有害性の強いガスが発生するおそれがある。 燃焼の際に生成する有毒な煙、蒸気、又はガス：一酸化炭素／塩素／塩化水素
特定の消火の方法	速やかに容器を安全な場所に移す。移動不可能な場合には、容器及び周囲に散水して冷却する。 消火作業は、風上から行う。初期の火災には、粉末、二酸化炭素、乾燥砂などを用いる。
消火を行う者の保護	消火作業従事者は、適切な保護具を着用する。
<b>6 漏出時の措置</b>	
人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	関係者以外の立ち入りを禁止する。 適切な保護具を着用する。
環境に対する注意事項	漏出した製品が、河川などに排出され、環境へ影響を起こさないよう注意する。
回収、除去	少量の場合、乾燥砂、土、おがくず、ウエスなどに吸収させて、密閉できる空容器に回収する。 大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて回収する。
封じ込め及び浄化の方法・機材	危険でなければ漏出源を遮断し、漏れを止める。
<b>7 取扱い及び保管上の注意</b>	
取扱い	
技術的対策	(取扱者の暴露防止) 『8. 暴露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
局所排気装置・全体換気	『8. 暴露防止及び保護措置』に記載の局所排気装置、全体排気を行う。
注意事項	
[緊急時応急措置指針]	密閉された装置、機械、又は局所排気装置を使用する。取扱いは、換気のよい場所で行う。野外での取扱いはできるだけ風上から作業する。
接触回避	『10. 安定性及び反応性』を参照

安全取扱い注意事項	容器に過度の衝撃を加える、転倒させる、落下させる、又は引きずるなどの粗暴な扱いをしない。
保管	
技術的対策	<p>保管場所は壁、柱、床を耐火構造とし、かつ、はりを不燃材料で作る。</p> <p>保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の軽量な不燃材料でふき、かつ天井を設けない。</p> <p>保管場所の床は、床面に水が浸入し、又は浸透しない構造とする。危険物が浸透しない構造とするとともに、適切な傾斜をつけ、かつ、適切なためますを設ける。</p> <p>保管場所には危険物を貯蔵し、又は取扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。</p>
混触禁止物質	『10. 安定性及び反応性』を参照。
保管条件	
（適切な保管条件）	直射日光を避け、密閉して冷暗所に保管する。
（避けるべき保管条件）	『10. 安定性及び反応性』を参照。
安全な容器包装材料	ガラス等
<hr/>	
8 暴露防止及び保護措置	
設備対策	屋内作業場所での使用の場合は発生源の密閉化又は局所排気装置を設置する。取扱い場所の近くに安全シャワー、手洗い、洗顔設備を設け、その位置を明確に表示する。
管理濃度	作業環境評価基準(2005)未設定
許容濃度(暴露限界値)	
日本産業衛生学会	未設定
ACGIH	未設定
保護具	
呼吸器の保護具	<p>空気呼吸器(SCBA)を着用する。</p> <p>有機ガス用防毒マスク</p>
手の保護具	状況に応じて、ゴム製などの不浸透性の手袋を着用する。
眼の保護具	保護眼鏡又は安全ゴーグルを使用する。
皮膚及び身体の保護具	状況に応じて、ゴム製の前掛け、長靴、保護衣などの不浸透性の保護具を接触を避けるために着用する。
<hr/>	
9 物理的及び化学的性質	
物理的状态	わずかに微黄色透明の液体
臭い	特有臭
pH	データなし
融点・凝固点	約-14℃
沸点	約 200℃
引火点	約 80℃
発火点	>450℃ (自然発火温度)
燃焼又は爆発範囲	下限 1.5vol% 上限 6.5vol%
蒸気圧	0.06kPa (25℃)

蒸気密度(空気=1)	データなし
比重(密度)	1.249g/cm <sup>3</sup> (20°C)
溶解性	水に対する溶解性: 溶けない 溶媒に対する溶解性: エタノール及びエチルエーテルに極めて溶けやすい
オクタノール/水分配係数	4.24
分解温度	データなし
粘度	データなし

## 10 安定性及び反応性

安定性	予期される通常の保管及び取扱いの条件において安定と考えられる。
危険有害性反応可能性	酸化剤と接触すると反応することがある。
避けるべき条件	日光、熱、混触接触物質との接触
混触危険物質	強酸化剤
危険有害な分解生成物 (一酸化炭素、二酸化炭素及び水を除く)	塩素/塩化水素

## 11 有害性情報

(この物質の、ヒトの健康への影響に関するデータが不十分なので、最大の注意を払う必要がある。)

急性毒性	飲み込むと有害のおそれがある。
経口	ラット LD50 2790 mg/kg
局所効果	眼及び皮膚を刺激する可能性がある。
感作性	データなし
慢性毒性・長期毒性	長期にわたる、又は、反復暴露による臓器(肝臓、腎臓)に障害のおそれ。
がん原性	IARC 及び NTP のリストに記載されていない。
変異原性	データなし
生殖毒性	生殖機能を損なうリスクの可能性がある。 胎児に害を及ぼすリスクの可能性がある。

## 12 環境影響情報

(この物質の、自然環境への影響に関するデータが不十分なので、最大の注意を払う必要がある。)

移動性	データなし
残留性・分解性	微生物などによる分解が難分解性と判断される物質である。 0% by BOD(経産省既存化学物質安全性点検)
生態蓄積性	魚介類の体内において、蓄積性が低いと判断される物質である。
生態毒性	水生生物に対して有毒であり、水生環境中で長期にわたり悪影響を及ぼすことがある。
魚毒性	メダカ LC50/96H 2.7 mg/L

## 13 廃棄上の注意

内容物や容器は都道府県の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に廃棄を委託する。

---

## 14 輸送上の注意

### 国際規制

国連分類(Class or Div.) 分類基準に該当しない

使用者が構内若しくは構外の輸送若しくは輸送手段に関連して知る必要がある、又は従う必要がある特別の安全対策

運搬に際しては直射日光を避け、容器の漏れのないことを確かめ、落下、転倒、損傷のないように積み込み、荷崩れ防止を確実に行う。

---

## 15 適用法令

毒物及び劇物取締法	該当しない
労働安全衛生法	該当しない
船舶安全法	危規則危険物告示別表第1 有害性物質
航空法	その他の有害物件
化学物質管理促進法	法第2条第2項、施行令第1条別表第1 第一種指定化学物質 番号165 [平成21年10月1日以降:新規対象]
消防法	法第2条危険物別表第4類引火性液体:第3石油類 非水溶性液体(指定数量)2000L 危険等級Ⅲ
化審法	法第2条6項、第3種監視化学物質

---

## 16 その他の情報

### 引用文献

製品安全データシート GHS-11901-1 2,4-ジクロロトルエン(ナカライテスク株式会社)

### 記載内容の問い合わせ先

担当部門	品質保証部
電話番号	075-691-4125
FAX 番号	075-691-9536

---

※ 記載された内容は、一般的に入手可能な情報やメーカー所有の知見によるものですが、すべての資料及び文献を調査したものではなく、含有量、物理化学的性質、危険有害性などに関しては、いかなる保証をなすものではありません。従って、ここに記載した製品の取扱い又は保管時における事故に対して責任を保証するものではありません。又、新しい知見によって改定されることがあります。

※ 記載された注意事項は通常取扱いを対象としたものですので、特殊な取扱いの場合には、十分な安全対策を実施の上、ご利用ください。

以上